



井口 貢

Iguchi Mitsugu

- 1956年 滋賀県米原町（現、米原市）生まれ
- 現 職 同志社大学政策学部・総合政策科学研究科教授
岡崎女子短期大学経営実務科助教授、岐阜女子大学文学部観光文化学科助教授、京都橘女子大学文化政策学部文化政策学科教授を経て、2007年4月より現職
- 関 心 文化政策学、観光政策論、観光文化論、地域文化論、日本近現代文芸史、日本民俗学と公共性
- 単 著 『文化経済学の視座と地域再創造の諸相』学文社、1998年
『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社、2005年
- 編 著 『文化現象としての経済』学術図書出版社、1995年
『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房、2002年
『まちづくりと共感、協育としての観光』水曜社、2007年
『入門 文化政策』ミネルヴァ書房、2008年
『観光学への扉』学芸出版社、2008年
『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』学文社、2011年
『観光文化と地元学』古今書院、2011年
- 共編著 『地域力再生の政策学』（真山達志・今川晃との共編）ミネルヴァ書房、2010年
『京都・観光文化への招待』（池上惇との共編）ミネルヴァ書房、2012年
- 共 著 『ポプラール・金沢』（黒川威人編）前田印刷出版部、1996年
『柳田国男・ことばと郷土』（柳田国男研究会編）岩田書院、1999年
『感情マネジメントと癒しの心理学』（久保真人編）朝倉書店、2011年 ほか多数

■研究室紹介

書を携えてまちへ出るとのこと

井口ゼミの学生たちは、特に地域における文化政策・観光政策に深い関心を抱き、教室の中の学びのみではなく、現実の地域をフィールドにして考察することも積極的に取り組んでいます。また、書物に書かれた地域の姿や課題を実際に現場で発見し、加えて、ゼミで共に学ぶ学生や、時には地域の人達とともに問題解決に向けた実践的研究も行います。言い換えれば、書物から得た知識を批判的に継承し、地域社会への直観と分析を通して、ヒト・モノ・コト、そしてささやかであってもその歴史を横軸として地域社会を俯瞰するということなのです。さらに換言すれば、“虫の目と鳥の目”で風土を見つめるということになるでしょう。

学生たちに目を向けると、それぞれが書物の知識とまちで学んだ知恵との相関関係のなかで相乗的に学び、地域社会から発した政策的思考を創り上げていっているように思います。普段のゼミでは、観光と文化を巡る地域政策の展開について学生主体の研究発表が行われています。さらに、同じ学年のゼミ生にとどまらず、社会人院生も含めた文化政策の学徒たちが上下の隔たりなく、書を携えて、まちに出て、愉しみながら研究を続けています。

（作成協力：池田優衣・郭育仁・下元悠生・古村有佳理〔イラスト〕）